

◆通所介護ナイス・デイ◆訪問介護ナイス・ケア◆小規模多機能型居宅介護ナイス・ホーム◆住宅型有料老人ホーム愛宕の家◆有料職業紹介つしま紹介所◆学童・託児ナイス・キッズ◆喫茶てのひら

SOS vol. 187通信
H28年3月11日発行
発行元：株式会社サポート・ワン・サービス
愛知県津島市愛宕町四丁目113〒496-0036
代表TEL：(0567) 26-3921
FAX：(0567) 26-3922
ホームページ <http://www.s-o-s.co.jp>

《利用状況 案内板 (★募集中★満員)》

★ナイス・ケア **利用者さん大募集♪**
★ナイス・デイ (定員 10名/日)
日 月 火 水 木 金 土
8 7 7 8 6 8 8
★ナイス・ホーム (定員 25名、登録者 18名)
★愛宕の家 (定員 17名中入居者 15名)
★つしま紹介所
★ナイス・キッズ
4月～新1年生になる子の登録希望も増えてます。この機会に是非♪♪
～参考にご利用下さい～

《教室案内》

・和太鼓 月曜日(年間 35回)
場所：愛西市川淵コミュニティ
・コーラス 水曜日(月 2回)
場所：喫茶てのひら
・バスケット金曜日(月 2～4回)
場所：藤浪中学校体育館
※職員やキッズ達の趣味活動を兼ねて各教室を発足。地域の方々にも参加していただけます。
各教室月謝制で、定員あり。
詳細はお問い合わせ下さい。

《3月行事予定》

3日 ひな祭り
10日 外食DAY
梅の花見
20日 避難訓練
22日 誕生日会
30日 いきいきサロン
《不定期行事》
天気や意欲等で状況判断し、外出先一覧を参考に社会生活に参加します。

『今日は本音を言おうじゃないか♪』と題して、利用者さんやスタッフに突撃取材。嬉しかったこと、悲しかったこと、悔しかったことを聞き、了解を得て写真と共に載せちゃいます。恨みっこ無しよ♪

2月の本音をきいてビックリ！
Nさんの気持ちを確認・・・
“夕食前の18時過ぎ頃にトイレに行きたい”
早速カフダンスで話し合い、食事前には必ず声をかけることになりました。



『今、コーラスメンバーが8名。最近5名の体験者があったけど「上手に歌えるかしら」と気にしていた。参加者が増えて大勢で歌えると嬉しいなあ～』

地域密着型に移行されます/ナイス・デイ

平成28年4月1日、介護保険法の改正によりナイス・デイは地域密着型通所介護へ移行されます。「今までと何が変わるの？」と聞かれることも度々あるため説明を・・・少々。

その① ナイス・デイは定員18人以下のため、都道府県の管轄から→津島市の管轄対象となります。今後、ナイス・デイの指定や指導は津島市が行うようになります。

その② 4月1日からは、**新規の方に限り**津島市在住の方に限定されてしまいます。(但し！！3月末までに新規利用される場合は契約可能です。)

【募集】な・の・で♪ケアマネさん♪♪思案してみてください。
『先のことを考えたら今からナイス・デイに任せて安心！！』と思える方がみえましたら早速ご連絡(ご相談)下さいな(笑)

その③ おおむね6ヶ月に1回、利用者さんや家族、地域住民の代表者、市町村職員さん等で構成される『運営推進会議』を開催しなければなりません。活動状況を報告し、評価を受けると共に、要望や助言を聴く機会を設ける事になり、より一層地域との連携を密に行うことが必須です。

大丈夫！！ 現在ナイス・デイを利用して頂いている皆様は、津島市在住以外の方でも利用可能です。上記以外は今のところ大きな変化は確定していません。

4月から新たな気持ちで春のスタートを切ります！！(M.O)

ようこそ/愛宕の家

2月17日愛宕の家に新しい家族が増えた。最年少60代Mさん。180cm近い長身で、スラッとしたスタイルにキリッとしたお顔立ちは、さぞかし若い頃は人気があったらと思う容姿だ。

まずは会話からと思いをかけるが、ほぼ目を合わせてくれない。当然、返答もしてくれない。最初はそんな感じだった。それにもめげず、しつこく(?)声をかけると、ポツポツと答えてくれるようになった。地元の国立大学を出てもっと勉強がしたかったが、家業を継ぐ。昔の芸能人やバンド名が出てきたり(昭和の芸能界にも精通している?)

まずはこんなところ。ゆっくりで良いから、もっと知っていきたく思う。とりあえずは笑ってもらおう事。それを第1目標に頑張ろう。



【笑話】初日、介護担当者が『ここは自由に電話もかけさせてもらえんところなら悪い所(施設)だ！でも仕方ないで10日間だけおつたるわ！！』とタンカを切られ「お願いします。」と頭を下げていた。・・・でも、今も居るねえ(K.T)

「家に帰ります。」/ナイス・ホーム

奥様が面会にみえる度に『家内と一緒に帰ります』と話すYさん。

登録前は夫婦で生活をしてみえましたが、誤嚥性肺炎がきっかけで入院。退院時、別居のご家族が心配し『施設入所を検討している』と有料老人ホームの見学のため来所。

法人の説明をしているうちに『小規模多機能って何ですか??』と興味を示された。

奥さんが『出来る事なら元の様に2人で暮らしたい』という意思表示された。

それからの話は早かった。

退院後は連泊利用しながら在宅生活に向けて身体と心と環境、そして奥さんの介護力を養うことで、自宅での生活を実現させましようという事になった。

私達は連泊の関わりで心身の状態を把握する。

奥さんの面会時には帰宅後の想定をしながら“在宅生活(介護)で不安な点”を相談し解決する方法を探す。

Yさんや奥さんの体調変化に加え、気候の変化もあり、なかなか予定通りにはいきませんが、少しずつ“二人で暮らす生活”に向かっています。(Y.O)



家族懇談会/愛宕の家

平成27年度第2回愛宕の家族懇談会を開催しました。平成28年2月27日(土)13:30～15:00 喫茶てのひら

【内容】

- 参加者：入居者及びご家族・ケアマネージャー・薬剤師・職員(代表・看護師・介護職)
- 研修会：薬剤師より『認知症の薬剤について』質疑応答あり
- 入居者の状況報告
- 入居者の主症状及び生活実態の報告
- 消費税8%増税及び10%増税を目前に今後の諸費用設定の改定について
- 夜間の施設について
- 重要事項説明書について
- マイナンバーの取り扱いについて
- 介護サービス利用報告書について
- 居室ベッドの故障時の対応について

★平成28年度第1回家族懇談会は28年8月開催予定。



☆ 上前津調剤薬局より告知 ☆

シリアでの薬剤不足が深刻なので、自宅に使用しない薬剤があれば期限切れでも構わないので提供をお願いしたい。関係機関の薬剤師が調べ適切な管理の元で提供されます。※提供された薬剤はSOS事務所で一時預かりしています。

辞書離れ/ナイス・キッズ

誕生日会をする時、主役のキッズ達の食べたい物のリクエストに応じて準備する。

『トルネードポテトがいい！！』

なんだそれは??と「スマホで調べや分かるってえ(笑)」トルネードポテトを検索したら何十もの作り方が出てきた。

・・・キッズ達、『スマホで調べやあ』って当たり前になった。近頃は分からないことがあると、「スマホで調べて～」

『辞書で調べろ！』と言っても『面倒くさ～い。辞書で調べるより早いもん。』と平気で言う。辞書で調べることで頭にはいることもあるのに。でも、自分もすぐにスマホに頼り、辞書なんて全然手にしてない事に気づく・・・。(R.W)



《編集後記》

3月1日、徘徊事故の最高裁判決が出た。判決には温情を感じるがネット上などでは様々な見解が飛び交っていた。TVではニュースキャスターが『地域の見守りの目が大事です』とコメントしていた。前を歩く人、不意にすれ違うだけの人に関心を持たなくなった現代社会。認知症は、私もあなたも誰にも襲い掛かる可能性の高い病だ。しかし核家族化が進み高齢者の様子を知らない人が多い。どのような行動が認知症状なのか分からない。だから・・・目に止まらない。名前が縫付けてあっても理由を知らない。多世代関係の超希薄な現代を露呈した事故だ。(A.I)

夫婦の看取り/愛宕の家

愛宕の家に夫婦で入居していたさん夫婦。

昨年8月に夫が亡くなり、その半年後の2月24日、夫の後を追うように妻も逝ってしまった。妻は認知症の夫を常に気遣い、ある時は罵り合いながらも、支え合って生きていた様に思う。『おじいちゃんさえいなければどんなに楽か！！』とよく言っていたが、こと細かに世話を焼く相方がいなくなってしまっただけからは急に力が抜けたように、横になる時間が多くなった。

周囲は「今までの疲れが出た?」「ゆっくり休んだら穏やかな日々を精一杯楽しめるよ」と話していた。2ヶ月程が経つと『おじいちゃんは大変な人だった。』と泣きじゃくりながら言うようになった。そして、お経を唱えるようにもなった。

『〇〇して!!』『△△が食べたい!!!』と最後まで自分の意見を通すことに徹していたが、最期には『もう何もいらん。ありがとう。南無阿彌陀仏、南無阿彌陀仏』と言い残し穏やかに息を引き取った。今頃は天国で夫婦喧嘩でもしているだろう。(Y.I)



大切なのは何か・・・(写真と本文は関係ありません)/ナイス・ケア

昨年の夏、突然の発熱で『誤嚥性肺炎』と診断されたKさん。認知症の進行により、日常生活全般に全介助が必要で、当然、食事全介助。飲み込みも悪くムセる。口を開けず水分や食事を摂れない日もある。当然のように“胃婁増設も視野に入れた話し合い”はあった。

それでも・・・“危険性を承知の上で”『口から自然に食べられるだけ食べさせてほしい』と家族から要望があがる。

食事を楽しむor安全に食事が出来る。どちらに重きを置くのか。まずは安全に食事が出来る事を選ぶしかない。飲み込みのタイミングが一度ずれてしまうと食事の全てが中断する。『ゴホゴホ!』とムセ続けてしまうからだ。

飲み込みが上手く出来たときはスプーンを近づけると、口を開けてくれる。でも、食物が残っていることもある。次から次に考えること盛り沢山。

ヘルパー同士で食事時の様子を確認しながら、食事介助を考える。最後まで口から食べ続けてもらえるように関わっていきたくから。(T/M)



SOS通信はホームページへの掲載と合わせ、地域の関係者や事業所、ご家族様へも発送しています。3月の発送部数78部